

## 長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム 21 第2回 教育・文化部会	
日時	平成 22 年 10 月 20 日（水）午前 9 時 30 分から午前 11 時 45 分	
会場	長野市役所第二庁舎 10 階会議室 19	
出席者	作業部会員 （敬称略）	石塚弘登、藤沢謙一郎、山岸恵子、毛涯 伸、轟 繁満、宮澤俊弘、宮澤 博、山崎弘道
	関係課員	庶務課、秘書課、財政課、障害福祉課、保育家庭支援課、観光課、教育委員会事務局総務課、学校教育課、保健給食課、生涯学習課、文化財課、体育課企画課（事務局）

### I 会議次第

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 部会長・副部会長の選出
- 4 部会長・副部会長あいさつ
- 5 会 議
  - (1) 第四次長野市総合計画 前期基本計画の現況と課題
  - (2) 教育・文化分野の質疑及び意見交換等について
  - (3) 市民フォーラム 21 教育・文化部会 ワークショップについて
- 6 ワークショップ
 

テーマ：政策 4－5 地域から広がる国際交流の推進
- 7 その他
  - (1) 今後の予定について
  - (2) 事前課題シート（宿題）について
- 8 閉 会

### II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 部会長・副部会長の選出
 

部会長は石塚弘登部会員、副部会長は山岸恵子部会員
- 5 会 議
  - (2) 教育・文化分野の質疑及び意見交換等について
    - (1) 現況と課題 P203 にある「石家庄市」の記述について、「石家荘市」の表記とどちらが正しいのか。
 

⇒ 本市では、「石家庄市」の表記で「せっかそうし」と読むこととしている。
    - (2) 新学習指導要領で小学校に英語教育が導入されるということであるが、長野市の小学校における英語教育への対応の状況を聞きたい。
 

⇒ 現在は、新学習指導要領への移行期間であるが、長野市ではすべての学校で外国語活動をすでに実施している。来年度からの完全実施では、担任教諭が英語授業を担当することで準備を進めている。中学校には ALT（外国語指導助手）を 11 名、小学校は国際交流指導員を 3 名配置しているが、大変少ない人数ではあるが、外国語活動に対応している。

(3) 長野市は中核市として、県とは別に独自に取り組んでいる教員の研修の状況、教育活動の状況などを聞きたい。

⇒ 教員の人事権は長野県にあるが、研修権は中核市である本市にあり、長野市教育センターを設置して、指導主事を配置し、教員の研修を独自に実施している。機材などが市教育センターで揃わないものは、塩尻の県教育総合センターで実施している。ほか、中核市として、平成21年度と22年度に国の補助をいただき、外国語活動の研究校として指定校を定め、実施した経過などがある。

(4) オリンピックの良い遺産として、一校一国運動（国際交流活動）を続けているが、新聞で今年度の予算が不足したと聞いているが、実情を聞きたい。

⇒ 一校一国運動（国際交流活動）は、オリンピックにより設立した基金を活用して、各校の活動を支援している。H21年度に新型インフルエンザが大流行したことにより、交流活動が実施されなかった反動でH22年度に申請が集中し、予算が不足したことは事実である。結果として、予算額の不足は、既決予算の範囲で対応することができた。

(5) 一校一国運動について、来年度から英語教育が始まることに伴い、英語圏以外と交流がある学校の取組が希薄になることが懸念されないか。一校一国運動のあり方を変えた学校が出てきており、派遣や派遣の受け入れをどうするか、意見を求められた経過もある。

⇒ 各校の国際交流活動は、学校の方針を尊重したい。一校一国運動のねらいの一つに、国際理解教育があり、必ずしも英語を学ぶことを目的としているものではないと考えている。一校一国運動は、先生方の努力のおかげで継続している部分があり、世界に誇れる活動である。

(3) 市民フォーラム21 教育・文化部会 ワークショップについて

資料のとおり了承され、実施することとした。

## 6 ワークショップ

テーマ 政策4-5 地域から広がる国際交流の推進

2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙のとおり発表があった。

### 国際スポーツ

冬季オリンピック開催で世界に知られている。

オリンピック、パラリンピックで発信したNAGANOブランド力が低下している。

冬季スポーツの国際大会が開催されている。

冬季スポーツ以外の国際大会が少ない。

国際的に活躍するスポーツ選手が長野市から輩出されていない。

長野市には、国際的に知られたスポーツがない。

観光(施設)、スポーツ及び文化・芸術の組み合わせで何かできないか。

### 一校一国

一校一国運動が継続されている。

一校一国運動が継続していることは大変素晴らしい、もっと活発にしたい。

### 市民の意識や誇り

地元の強みや特長を再認識する。

地元にある誇れる物の理解が不足している。

市民は外国人との交流をどの程度望んでいるのか。

### 姉妹都市・友好都市交流

クリアウォーター市や石家庄市との交流をもっと活発にする。

クリアウォーター市と石家庄市との中高生の交流が継続しているのは良い。

留学生の受入れについて、支援が不足している。

留学生の受入れなど、人的交流の大切さの理解が不足している。

留学生(高等教育機関)のネットワークづくりが不足している。

自国の歴史・文化・教育がよくなされているのか。

子どもが良くなるためには、その親をフォローすることが必要である。

### 文化

オリンピックイベント(商店街等の開催)が少々マンネリ化している。

オリンピック開催の町として、それをどう生かして特色を出すのか不明確である。

県民文化会館とウィーン楽友協会が姉妹提携して20年以上の交流がある。

ウィーン楽友協会は毎年来長し、音楽セミナーや演奏会を開催している。

ウィーン楽友協会の善光寺(文化財とのコラボ)での演奏は大好評である。

### 外国人へのインフォメーション・サービス

外国語が話せない。聞き取れない。

駅前に蕎麦屋が少なく、おもてなしに困る。

飲食店のメニューに英語表記が必要である。

外国の方にも理解できるサインシステムの構築が必要である。

案内板を整備する。

### 長野の弱み

長野は資産が多すぎてまとまらない。絞りきれない。

## Bグループ

# 政策4-5 地域から広がる国際交流の推進

### 子どもたちの交流

- 一校一國運動が継続実施されている。
- 一校一國運動について、各学校の方針で行われている。
- 一校一國運動の活動する学校、児童、先生に限られる。
- 一校一國運動の活動について、教員が多忙で時間の確保が難しい。
- 一校一國運動に関する学校間の情報交換が欲しい。
- 一校一國運動について、メールや手紙での交流がある。
- 一校一國運動により、相手国の情報が入手できる。
- 一校一國運動交流予算が単年度不足した。
- 一校一國運動における経費負担が大きい。
- 一校一國運動について、小学校区単位で住民自治協議会の支援を受ける。
- 一校一國運動について、地域としてバックアップするには違いがある。
- 一校一國運動について、地域としてバックアップするには限界がある。
- 民間レベルで外国のアーティストを小学校に招いて一流の演奏を聞かせる。
- 平成の威臨丸のような事業を取り入れる。
- 国際化教育推進活動補助金が確保されている。
- 子どもたちの国際交流基金がある。
- 子どもたちの国際教育のための倉石忠雄基金がある。

### スポーツ・イベント

- 国際的なイベントへの市民参加の機会を増やす。(例: スポーツ大会のレセプション)
- クリアウォーター市と石家庄市との中高生の交流が継続しているのは良い。
- 国際大会の誘致には、大会運営費の補助が必要である。
- 国際大会など、大きな大会・イベントを開催するためには、資金調達が課題である。
- 長野オリンピックを契機に国際交流が進んだ。
- スポーツ交流を通じて外国人と親しくなる。
- 長野市主催の国際的展覧会やイベントが少ない。
- ウィンタースポーツ以外の国際大会が少ない。

### 友好・姉妹

- 姉妹都市・友好都市を(費用負担がかからない工夫をしながら)増やしてはどうか。
- 姉妹都市・友好都市と市民レベルの交流を図る。
- 国際親善クラブの将来への展望が見えない。

### その他

- ホストファミリーになりたいが情報がない。
- 長野の市民性はものしずか、おくゆかしい
- 外国人に施設が使用しにくい。
- 近隣諸国からの観光客を誘客する。
- 海外では芸術文化、アーティストが公務員として存在している。
- 若手芸術家が海外に羽ばたく活動を援助する。
- 芸術文化を通して言語を超越し、異文化の橋渡しをする。

### 外国にいる日本人との交流

- 首都圏在住のふるさと長野応援団があるので、海外在住者の応援団を作る。
- 海外に出る研究者や学生が減っている。

### 外国人との交流

- 各地区(多少まとめて)で「外国人市民会議」を開催する。
- 市内在住の外国人を公民館活動の講師として招く。
- 外国人との交流の場や機会が少ない。
- 外国人と文化財に関する交流が少ない。
- ホームステイなどの交流が少ない。
- 国籍が多岐にわたり、様々な言語指導員が確保できない。
- 市内に暮らす外国人の支援の方法を考える。
- 外国人の子どもたちの学校生活を支援する。
- 外国人の子どもたちの保護者へのケアが十分でない。